

児童発達支援・放課後等デイサービス新規参入セミナー 概要

■ 開催日時などについて

開催日時 Web開催 2025年11月4日(火)・7日(金)・11日(火)・21日(金)
開催時間:13:00~16:00 (ログイン開始:開始時間30分前~) ※各回、同じ内容です。ご都合のよい日時をお選びください。

申込期限 ・銀行振込み:開催日6日前まで ・クレジットカード:開催日4日前まで ※祝日や連休により変動する場合もございます

金額 ■ 一般価格(1名様) 税込 **33,000円**(税抜30,000円) ■ 会員価格(1名様) 税込 **26,400円**(税抜24,000円)
※会員価格は、各種経営研究会・経営フォーラム、および社長onlineプレミアムプラン(旧:FUNAIメンバーズPlus)へご入会中のお客様のお申込みに適用となります。

■ 講演内容について

第1講座 幼稚園・保育園・認定こども園事業者がいま参入すべき「児童発達支援・放課後等デイサービス業界」の動向
株式会社船井総合研究所 福祉・保育チーム リーダー 藤光 孝法
支援が必要なお子様のニーズも増加し、事業所数が急増している児童発達支援・放課後等デイサービス業界。その現状を解説いたします。

第2講座 **特別ゲスト講座**
学校法人登別立正学園 理事長 木村義恭氏
学校法人登別立正学園で理事長を務める木村氏より、保育事業から児童発達支援・放課後等デイサービス事業に参入した背景や成功したポイントについて、ありのままお話しいただきます。

講座抜粋 ①障がい児支援事業参入のストーリー ③障がい児支援参入の成功ポイント
②独自コンセプトに基づいた療育内容

第3講座 開所から運営まで、『こども幼保×障がい福祉』で成功する方法を解説!
株式会社船井総合研究所 福祉・保育チーム 俣野 健太
障がい児支援を成功するために何が必要か。視察のまとめから、事業参入の方法と成功のポイントを解説いたします。

講座抜粋 ①ゲスト法人の成功ポイント
②何から始めたら良い!?開業までの実施事項・重要なポイント
③障開所してから必要になる児童発達支援・放課後等デイサービス経営のポイント

第4講座 明日から取り組んでいただきたいこと
株式会社船井総合研究所 福祉・保育チーム リーダー 藤光 孝法
本日の全講座を踏まえて、皆様にこれから取り組んでいただきたいこと、考えていただきたいことについてお話しいたします。

セミナー参加者特典!無料経営相談のご案内

セミナー終了後、質問や疑問点などに対して個別にお時間を設定させていただきます。
今後の事業展開に向けた具体的な内容もその場で答えさせていただきます!是非お申込みください。

お申し込み方法 右記の QR コードを読み込み、お申込みください!
または船井総研ホームページ (www.funaisoken.co.jp) にある右上の検索窓に『131402』を入力、検索ください。

お申込み HP URL <https://www.funaisoken.co.jp/seminar/131402>

お問い合せ 船井総研セミナー事務局
E-mail seminar271@funaisoken.co.jp

※お電話・メールでのセミナーお申込みは承っておりません。
※お申込みに関してのよくあるご質問は「船井総研 FAQ」と検索しご確認ください。

TEL : 0120-964-000 (平日 9:30 ~ 17 : 30)



認定こども園・幼稚園・保育園のみなさま必見!

全国どこからでも参加OK!
Web
セミナー

人口
わずか

4.4万人の 地域で成功する 児童発達支援・ 放課後等 デイサービス

特別ゲスト講師

学校法人登別立正学園 理事長 木村 義恭氏

■ 一般社団法人 全国認定こども園連絡協議会顧問

■ 一般社団法人 全国企業主導型保育事業連合会 代表理事

ゲスト講師が
実現した
3つの事例

- 01 2年で在園児・卒園児約30名利用!
- 02 開業半年で新規利用問い合わせ50件以上!
- 03 キャンセル待ち多数!地域内で評判の施設に!



**Web
セミナー
開催日時** 2025年11月4日(火)・7日(金)・11日(火)・21日(金)
開催時間:全日13:00~16:00(ログイン開始:開始時間30分前~) ※各回、同じ内容です。ご都合のよい日時をお選びください。

児童発達支援・放課後等デイサービス新規参入セミナー

お問い合わせ No.
S131402

主催



サステナブルグロースカンパニーをもっと。
Funai Soken

株式会社船井総合研究所

〒541-0041 大阪市中央区北浜 4-4-10 船井総研大阪本社ビル

当社ホームページからお申込みいただけます。
(船井総研ホームページ [www.funaisoken.co.jp] 右上検索窓に [お問い合わせNo.] を入力してください)

131402

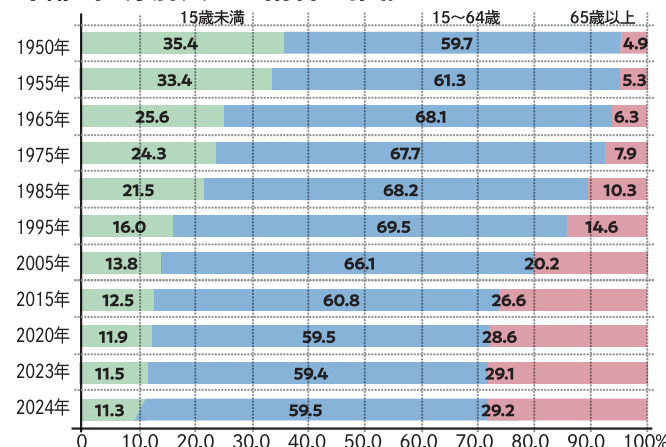


園の未来に押し寄せる 「少子化の波」

現在、我が国では少子化が深刻なスピードで進行しています。総務省の調査によると、2024年4月時点での15歳未満のこどもの数は前年比33万人減の1401万人。これは1982年から43年連続の減少であり、ついに過去最少を更新しました。この影響を最も強く受けているのが、地域に根ざした保育施設です。特に地方部では定員割れや統廃合の危機に直面している園も増加しており、持続可能な運営が難しくなっているケースも少なくありません。

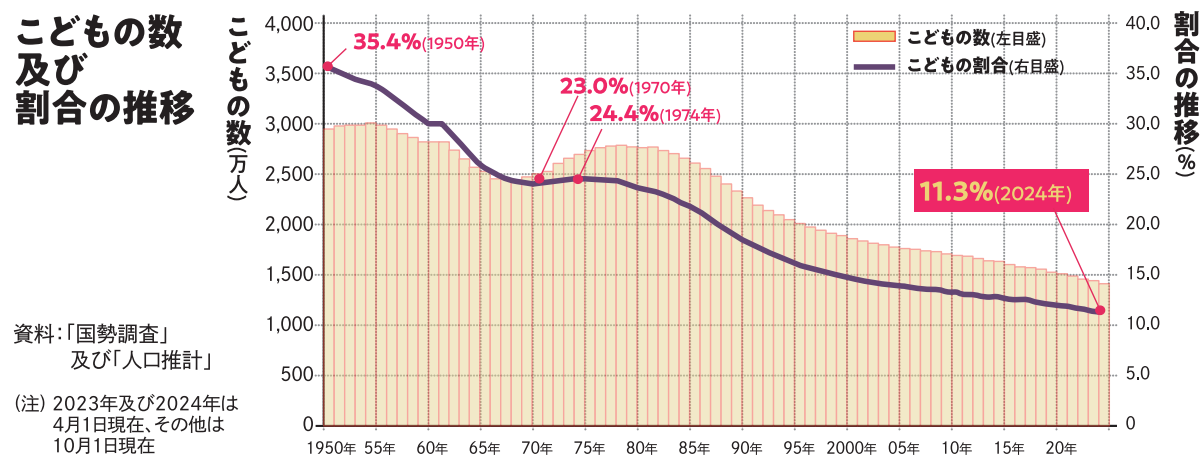
一方、都市部においては定員は満たせても職員不足が深刻化しています。保育士の確保が難しく、採用活動に追われる日々の中で、「このままでは経営の土台が揺らぐのでは」という危機感を抱く園も増えています。

年齢3区分別人口の割合の推移



出典：総務省「わが国のこどもの数」
<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/topics/pdf/topics141.pdf>

こどもの数
及び
割合の推移



もう一つ見過ごせないのが、発達特性や支援ニーズの高い園児の増加です。現場の先生方からも、「クラス運営と並行して支援ができない」「専門的対応が難しい」といった声が増えています。実際、保育園・こども園の先生たちは、日々の業務に加えて多様な家庭背景・個別の特性をもつ子どもたちへの対応を強いられており、現場の疲弊や離職にもつながる課題となりつつあります。そうした中で今、注目を集めているのが「児童発達支援」や「放課後等デイサービス」など、発達特性のある子どもへの専門的支援を提供する福祉事業です。これらの事業は近年、国の方針として制度が整備され、事業所運営に対する給付制度や指導監督基準も明確化されてきました。また、0～6歳の未就学児を対象とする児童発達支援は、保育園とも接続しやすい領域であることから、「園の中に新たな機能を設ける」という発想で導入を検討する事業者も増加傾向にあります。

一方で、「福祉事業には専門的な知識や資格が必要なのは」「開業手続きや運営ノウハウが全く分からない」といった不安やハードルから、一步を踏み出せずにいる事業者が多いのも実情です。また、保育士と福祉職員の違いや、職員確保、収益性の見通しなど、既存園の経営者にとっては未知の分野であることも、「関心はあるが踏み切れない」要因になっています。だからこそ今、同じ保育事業者として、ゼロから福祉事業に参入し、成功を収めている法人の実例を知ることが、最初の大きな一歩となります。

北海道、登別市。 人口4.4万人の小さな町で 1つの事業が動き出す。

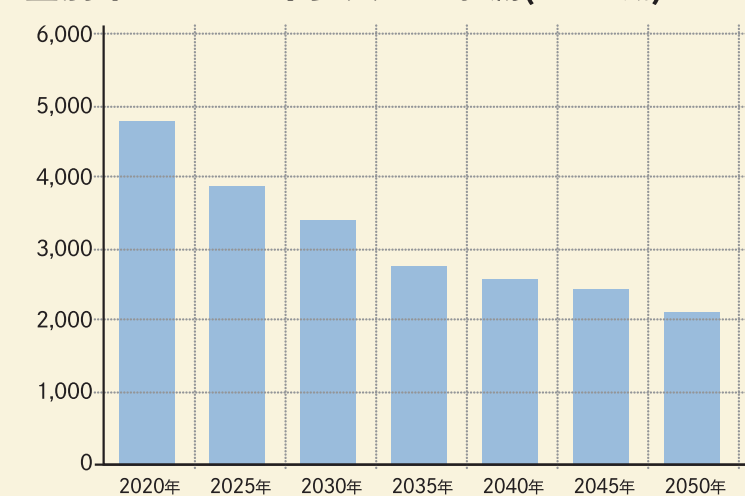
有数の温泉地としても名高い 北海島・登別市も直面している 『少子化の波』

日本有数の温泉地として知られ、四季折々の美しい自然に囲まれた魅力的な街、北海道登別市。自然が豊かで子育てに適した地域だと言えます。しかし、それとは裏腹に、登別市でもまた深刻な人口減少と少子化が進行していました。

統計によると、登別市の年少人口(0～14歳)は2020年国勢調査で4,775人となっていますが、2050年時点では2,092人と半数以下にまで減少することが予測されています。実際に、出生数においても2023年の調査では登別市の出生数は166人(前年比14.0%減少)と過去最少を記録しています。人口減少により、地域の保育・教育環境も厳しくなる中、幼稚園や保育園の経営は厳しさを増し、園児の減少による閉園を余儀なくされる施設も少なくありません。

また、若年層の流出により、高齢化が進行し、地域の活力が低下しています。そんな登別市において、「地域の子どもたちを支え続ける」ことを使命とし、新たな取り組みを始めた法人がありました。

登別市における年少人口の予測(0～14歳)



学校法人 登別立正学園の挑戦

特別ゲスト講師

学校法人登別立正学園 理事長 木村 義恭氏

Profile

北海道登別市の学校法人登別立正学園で「未来にはばたく6歳を育てる」を合言葉に、認定こども園、企業主導型保育事業、幼稚園、子育て支援センター、子ども向けプログラミング教室を幅広く運営している。2023年7月にビューティフルステート登別をオープン。



存在理由

「すべての人に笑顔を届ける」

学校法人登別立正学園は、北海道登別市を拠点に、地域の子どもたちの成長を支える教育・保育施設を展開しています。1955年に開園した白菊幼稚園をはじめ、登別保育所 コロボックルの森や海の子保育園、幌別東保育所、ストロークハウスなど、多様なニーズに応える施設を運営し、地域の子育てを幅広く支えています。園児一人ひとりに寄り添い、豊かな感性と社会性を 育む保育をおこなっているのが特徴です。

さらに、2023年7月には、発達に課題を持つ子どもたちを支援する「ビューティフルステート登別」を開設しました。ここでは、感覚統合療法を取り入れた運動療育を通じて、子どもたちが自信を持って自らの力を発揮できるようサポートしています。

しかし、その立ち上げは決して順風満帆ではありませんでした。登別立正学園もまた、皆様と同じように、事業の方向性や運営の課題に悩み、模索しながら一步を踏み出したのです。地域の子どもたちのために、どのような決断があったのか？その経緯を追ってみましょう。

登別立正学園を支える
「6つの施設」



認定こども園白雪幼稚園・
登別保育所 コロボックルの森



認定こども園 白菊幼稚園



公私連携幼保連携型
認定こども園 海の子保育園



企業主導型保育事業
ストロークハウス



運動特化型児童発達支援・放課後等
デイサービスビューティフルステート登別



幌別東保育所

新規事業参入への葛藤

「人が集まるのか」「投資回収は可能か」 そして、「いつから始めるべきなのか」

木村氏は、**園の児童の中に発達に特性のある子どもが少なくない**ことを日々実感していました。**「この子たちが安心して過ごせる場をどうすればつくれるのか？」**

そうした思いから、さまざまな選択肢を模索し、悩み抜いた末にたどり着いたのが、**児童発達支援・放課後等デイサービスの立ち上げ**でした。

しかし、いざ新しい事業を始めるとなると、さまざまな不安が押し寄せました。特に大きな懸念は、福祉人材の確保でした。福祉事業には専門的な知識が必要であり、既存の保育とは異なるスキルや資格を持つ職員を採用しなければなりません。

ところが、木村氏は**「本業である保育事業に従事する保育士が、児童発達支援・放課後等デイサービスの職員として兼務できる可能性がある」**という強みがあることに気づきました。既存の保育士の中には、発達特性のある子どもへの対応に関心を持ち、さらに専門性を深めたいと考える職員が少なくなかったのです。

そうした**職員のスキルアップを支援し、福祉事業への移行を促す**ことで、スムーズに人材確保の課題を克服する道筋が見えてきました。

さらに、**既存の保育事業の人的資源を活かすことで、新たな投資を最小限に抑えることができ**と考えました。これまでに築いた地域との信頼関係や、保護者とのつながりも、児童発達支援・放課後等デイサービスの利用促進において強みとなるはずでした。

「始めるなら、いつが最適なのか？」

そのタイミングも悩みの種でした。社会情勢や地域の状況を考慮しながら、最も効果的なタイミングを見極めることに苦心しました。

それでも、**「今いる園児とその保護者を支える仕組みを作れば、地域にとっても必要な施設になるはずだ」**との思いが背中を押し、木村氏はついに新たな挑戦に踏み出したのです。



なぜ学校法人登別立正学園は人口4.4万人の小都市で、2年で在園児・卒園児約30名が利用する人気施設をつくることに成功したのか？

インタビュアーから皆さまへ

株式会社船井総合研究所 子育て支援部 リーダー 藤光 孝法
北海道登別市で、児童発達支援・放課後等デイサービス事業への新規参入に成功した学校法人登別立正学園。年間出生数166人の地方都市で、一体どのようにして事業へ参入し、定員をはるかに超える利用者が殺到し、キャンセル待ち多数の大人気施設を作るに至ったのでしょうか？その詳細を探るべく、特別にインタビューを行いました。



藤光：本日は、児童発達支援・放課後等デイサービス事業の立ち上げに成功された学校法人登別立正学園の木村義恭氏をお迎えし、その成功の背景についてお話を伺います。木村先生、まずはこの事業を始めようと思ったきっかけを教えてくださいませんか？

木村氏：もともと、私たちの園には**発達に特性のある子どもたちが一定数在籍**していました。そうした子どもたちが十分なサポートを受けられない現状を目の当たりにし、「**この子たちにもっと適した環境をつくれないか？**」と考えたのがきっかけです。

藤光：ただ、児童発達支援・放課後等デイサービス事業は、保育とは異なる専門性が求められるため、新規参入には不安もあったのではないのでしょうか？

木村氏：そうですね。最大の懸念は「**人材を確保できるのか？**」という点でした。福祉分野は専門職の人材が不足しており、地方では採用がさらに難しい。加えて、初期投資や運営の安定化についても不安がありました。

藤光：その課題に対し、具体的にどのような対策を講じましたか？

木村氏：まず、人材確保については「**お仕事説明会**」を開催しました。福祉分野に興味があるけれど経験のない方や、復職や転職を考えている保育士の方や、教員免許をお持ちの方に向けて、私たちのビジョンや事業の目的を伝える場を設けました。結果として、「子どもたちの成長をサポートしたい」という想いを持つ人材に出会うことができました。

藤光：なるほど。加えて、貴園では**既存の保育士の方々も児童発達支援の業務に関わる形**をとられたそうですね？

木村氏：そうです。一部、保育士の先生方が園との兼務で児童発達支援・放課後等デイサービスに関わることができるようにし、職員の負担を分散させました。園での経験を活かせることで、先生方もスムーズにこの事業に適応できました。



藤光：では、子どもたちの集客に関してはどのような施策を行いましたか？

木村氏：まず、自園の園児の保護者の皆さんに丁寧に説明し、既存の信頼関係を活かしました。次に、地域の支援機関や医療機関と連携し、適切な支援が必要なご家庭へ情報を届けました。さらに、差別化のポイントとして「運動療育」に特化し、子どもたちが楽しみながら成長できるプログラムを導入しました。結果的に、現在では**在園児・卒園児の方約30名に利用いただいています**。

藤光：その結果、**開業半年で定員10名を大幅に上回る利用児童が集まり**、キャンセル待ちが発生するほどになったのですね。

木村氏：はい。正直、ここまでの反響があるとは思っていませんでした。しかし、保護者の皆さんの「**この施設があって助かった**」という声を聞くと、やってよかったと心から思います。

藤光：これから新規参入を考えている園の経営者の皆さんへ、何かメッセージをいただけますか？

木村氏：**児童発達支援・放課後等デイサービスは、ただの事業拡張ではなく、地域の子どもたちやその家族にとって大きな支えになります**。私たちも最初は不安がありましたが、藤光さんのコンサルティングを受けながら進めることで、無理なく成功につなげることができました。今、不安を感じている経営者の方も、一歩踏み出せばきっと道が拓けると思います。

藤光：ありがとうございます。本セミナーでは、今回お話いただいた登別立正学園の成功事例をさらに詳しくご紹介し、具体的な開業プロセスについてもお伝えします。児童発達支援・放課後等デイサービスの導入を検討されている方は、ぜひご参加ください！

2年で在園児・卒園児約30名利用 キャンセル待ち多数の人気施設へ！

開業から2年、登別立正学園の児童発達支援・放課後等デイサービスの契約児童は**定員10名に対して44名**に達しています。これは決して偶然の成功ではありません。戦略的な職員採用の工夫と、地域のニーズを的確に捉えた集客戦略が功を奏した結果です。開業当初は不安もありましたが、計画的に施策を実行し、一つひとつの課題をクリアしてきたことが、今の成果へとつながっています。現在では、地域の保護者から「ここに通えて本当に良かった」と感謝の声が多く寄せられ、行政機関や他の保育施設からの見学希望も増加。**このモデルが他の地域でも再現可能であることが証明されています**。**「うちの園でもできるかも？」** そう思った方は、ぜひ本セミナーで詳細を学んでみてください！

3時間のオンラインセミナーで、成功のポイントを すべて公開！実際の開設プロセスや運営の工夫を解説！

あなたの園も、地域の子どもたちの未来を支える場へ——
今こそ、新たな可能性を見つけるチャンスです！